

つれづれなるまゝに 第20号

令和2年10月19日（月）発行



校長 深谷 浩一

2年5組，全種目完全制覇！ ～本校初の快挙実現！～

今年度のクラスマッチは，台風の影響により延期となっていました，先週14日に5日遅れて実施することができました。コロナ感染防止の観点から，体育館での試合観戦は自分のクラスに限るという条件の中での観戦となってしまいましたが，そんな中であっても最大限クラスマッチを楽しんでもらえたのではないかと思います。

今回のクラスマッチでの最大のトピックは，何と言っても**2年5組が出場した5種目すべてにおいて優勝**したことです。これは開校以来の快挙で，これからはまず「絶対に」と言ってもいいくらいあり得ないことではないでしょうか。

それでは種目ごとに，担任の先生方のコメントを交えて闘いの軌跡をたどってみます。



まずバスケット（男子）で優勝したのは2年5組。須藤創大君，栗田光一朗君，川井康太郎君，岡田凱暉君，吉田丞成君などが活躍し，「須藤君は3ポイントシュートやドライブで得点を量産。栗



田君や川井君，岡田君，吉田君はディフェンスの際に走り回ってボールを奪い，チームを勢いに乗せた。」と担任の根反先生は評価しています。



バスケット（男子）で準優勝したのは，3年5組でした。特に活躍したのは平澤 大空君で，担任の柴沼先生は「バスケット部員としてクラスのメンバーをわかりやすく指導し，メンバーの技術が向上した。」とのことで，その甲斐あって「大会当日は得点の中心となって活躍した。」とのことでした。



バレーボール（男子）の優勝も2年5組でした。根反先生は、石田拓海君と鈴木堅冴君の二人の名を挙げて、「石田君は抜群の跳躍力を活かした、打点の高いスパイクで得点を挙げた。鈴木君は強烈なサーブで相手を翻弄した。」と分析しています。



バレーボール（男子）の第2位は3年4組。担任の塚本先生は、活躍した生徒として、鶴田優斗君、皆藤勝喜君、身内逸晃君、林 優翔君、小河原啓汰君、寺田紫音君の名を挙げて、「（この）6人の選手それぞれ持ち味を活かした活躍があった。クラス全員の応援も大きな力になった。」と話していました。



同じく2年5組が優勝したサッカーについて、試合を振り返ってみます。根反先生は活躍した選手として松本大耀君と伊勢澤丈君を挙げて、「松本君は同点となった決勝戦でPKを決め優勝に導いた。伊勢澤君はGKとして怯むことなく相手に立ちはだかりピンチを救った。」からだとその理由を話してくれました。



サッカーで準優勝したのは、2年2組でした。担任の大崎先生は、「最優秀殊勲選手」として坂倉 蓮君を挙げて、「現役サッカー部員であり、チームの主力として活躍していました。自らボールを持ってゴールを決めるだけでなく、他のメンバーに指示したり司令塔としての役割を果たしました。」と絶賛していました。



続いて、バレー（女子）の成績を見てみましょう。2年5組がリレー以外で女子が参加した唯一の競技でしたが、圧倒的な強さを示して優勝したのです。根反先生は、殊勲選手としてバレー部でも活躍している富田美来さん、高野あかねさん（陸上部）、松崎綾乃さん（女子バスケ部）を挙げてくれました。「富田さんは高い打点からの角度のあるスパイクを放ち、

得点を量産した。高野さんは相手のスパイクを幾度となく拾い、松崎さんは正確なトスで富田さんの得点を演出した」。私も試合を見ていましたが、富田さんのスパイクはまさに「直角スパイク」と言えるでしょう。先日バレー部は県南地区大会で優勝しましたが、バレー部であってもあのスパイクを簡単に拾える人は、おそらくいないでしょう。

決勝で惜しくも敗れてしまったものの、健闘し準優勝に輝いたのは、バレー部員を擁する2年4組でした。担任の倉持先生は、活躍した選



手として古谷田夢唯さんと松本理紗さんを挙げて、「古谷田さんは、バレー部員としてクラスの中心となりチームを引っ張り、松本さんは連続サーブポイントやアタックを決め、チームの勝利に大いに貢献した。」と二人を讃えていました。



次に2年5組が出場しなかった種目の成績について見てみましょう。

まず、バスケット（女子）から。優勝したのは、2年1組でした。担任の石田先生によると、特に活躍した生徒は長島

璃音さん、久野 楓香さん、篠塚 夏海さんの3名で「バスケットボール部の選手を中心に、上級生が相手でも臆することなく戦ってくれました。決勝戦は逆転勝ちで優勝を飾ることができ、団結がより深まったことでしょう。」というコメントを寄せていただきました。

バスケットボール（女子）の第2位は3年3組。担任の佐藤先生は、「活躍した選手は全員です。」と応え、その理由を「クラスマッチに向けて、普段から作戦を話し合い、体育の授業で実践練習を積み重ねていました。週末には公共の体育館を借りて8時間も練習していたようです。その熱意には感心させられました。練習の成果がでてくれて良かったです。体力的には厳しかったはずですがよく頑張ってくれました。」と話してくれました。



ドッジボールで優勝したのは、3年4組でした。担任の塚本先生によると、ドッジボールには、合わせて16名が参加し、特に深作真琴さん、畑岡利安さん、植木みらいさん、沼田恋桜さんが活躍したそうです。「深作は外野、畑岡・植木は内野で活躍、沼田はジャンパーとしてボールを取る。計16名の選手と多数の応援の生徒の一致



団結で優勝することができた。」と喜んでいました。

ドッジボールの第2位に輝いたのは、1年2組でした。担任の川俣先生は、「出場した選



手が頑張ってくれたことはもちろんなのですが、クラスの他の生徒も自分たちが出場する種目の合間を縫って応援に駆けつけてくれて、選手が楽しく頑張れたのではないかと思います。」とコメントしてくれました。

1年2組は総合でも6位に入賞し1学年では最上位の成績でした。1年生ながら「あっぱれ！」でした。



最終種目のリレーについて。優勝した2年5組のメンバーは、大和田遥希君、平塚悠希君、高野翔太君、宮嶋樹奈さん、岡村美鈴さん、小林未於さん、富田美来さん、大内飛翔君の8名でしたが、圧倒的な速さで2位に10メートル以上の差をつけて堂々の優勝を飾ったのでした。根反先生からは、「完全制覇がかかっていたので、プレッシャーはあったと思う。特に怪我人の代わりに走るようになった岡村さん、富田さんは特に緊張したのではないか。8人でよくバトンを繋ぎました。」と生徒たちの頑張りを讃えていました。



参加した5種目のすべてに優勝し「完全制覇」



して総合優勝を果たしたことについて、根反先生は、「去年は女子バレー、男子バスケ、リレーで優勝できたが、男子バレー、サッカーは上位争いに食い込むことができなかった。しかし、今年はこの2競技でも優勝することができ、非常に嬉しく思う。エースに頼るだけでなく、一人ひとりがレベルアップしていた。39人全員がよく頑張ってくれた。」と改めてクラス全員の健闘を讃えていました。



総合成績で第2位に輝いたのは、昨年3位だった3年5組でした。バスケット（男子）で第2位、バレー（男子）で第3位、サッカーでも第3位と安定した実力を示しましたが、バレー（女子）が上位に食い込めなかったことがひびいてしまったようです。とはいえ、例年なら十分優勝できる得点でしたので、今年は運が悪かったとした言いようがありません。

クラスの総合第2位に最も貢献したのは酒井洸誠君で、担任の柴沼先生によると、「HR代表としてよくクラスをまとめ、「当日朝のSHRでは『優勝しよう！』とクラスに呼びかけ、クラス全員の士気を高めた。」ということでした。

コロナ渦の中にあっても、歴史にも記憶にも残る最高のクラスマッチでした。ありがとう。



クラスマッチ

令和2年10月14日（水）開催

